

# 鈴木いくお



## 市政報告 ニュース

### 市民の声が行政を動かした!

#### 児童の安全について



《整備されたグリーンカラー舗装》

**Q** ルネ船橋レジデンスガーデン側(以降ルネという)にグリーンのカラー舗装を設置すると聴いているが、ルネ側より反対側の方が児童の安全面から良いのではないかと、見直しをする必要があるのではないかと考えたが、どのような理由でルネ側に設置するようになったのか。

**A** ルネ側に設置することになった理由としては、外側線があり車両と歩行者が分かれていること、児童を横断させる場所に溜りがあることから、グリーンのカラー舗装はルネ側にした方が安全ではないかとの判断をしました。

**Q** 教育委員会では、児童生徒の通行調査及び車両交通調査はしたのでしょうか。

**A** 教育委員会で再要望前に注意喚起看板の設置等、現地確認をいたしました。また、再要望後に要望頂いた際の車両交通調査の参考に校長先生と再度現地の状況について確認し、再調査当日は現地を良く知る「学校・PTA等の関係者・警察・道路部等の関係機関」で再度現地を確認し、安全対策についての再検討を行うこととしましたので、教育委員会として車両交通調査は行っていません。



**Q** 市民の声を取り入れた要望書を鈴木いくお議員が教育委員会に提出したが報告がなかった。グリーンのカラー舗装についてどのような結果になったのか伺う。

**A** 再確認の要望をいただいたことから、本年7月に再度「学校・PTA等の関係者、警察等の関係機関等」と緊急合同点検を実施いたしました。再検証し意見交換を行ったところ、当初の点検後に保育園ができたことにより通学の動線が変わった事等から、再要望のあったルネの反対側に外側線を引き直し、グリーンのカラー舗装を行なった方が良いとの結論となりました。今後、道路部において通園通学路整備工事の中でグリーンのカラー舗装等の整備を行います。現在入札が終わり、施行業者が決定し、年内には整備が完了する予定であると聞いております。〈写真〉





## ブロック塀について



図1《ブロック塀撤去改修工事費用》

6校のうちの3校です

塚田小学校	高さ2.13m×延長距離69.4m	契約金額5,940,000円
習志野台第二小学校	高さ2.6m×延長距離160.8m	契約金額7,344,400円
海神中学校	高さ1.6m×延長距離94.6m	契約金額8,964,000円

Q 「道路面にブロック塀が設置してあった学校6校について、老朽化が進んでいることから撤去改修を行った。」とありましたが、延長距離に対して契約金額が大幅に違うのは、なぜか伺う。(図1)

A 学校のブロック塀の改修にあたりましては、ブロック塀の撤去後にフェンスを設置するだけで完了する場合や、鉄筋コンクリートの基礎を新設する必要がある場合など、既存のブロック塀の設置状況に応じて改修しているため、延長距離に対する、契約金額に差がある状況となっております。



Q 基礎によって大幅に金額が違うことはわかりました。船橋市危険コンクリートブロック塀等撤去助成事業補助金について伺うが、ホームページの内容を市民の方にFAXしたところ「これではわかんないよ」とご返事があり、わかりずらいんです。また、擁壁の場合は、どのように扱うのか伺う。

A 議員ご指摘の「助成対象者」がわかりにくい表現となっている点を含めて、今後、市民にわかりやすく、理解が得られ、本助成制度の利用につながるような内容や表現の工夫に努めてまいります。

Q 緊急対策として、超危険ブロック塀は直ちに改修できるような制度にするべきではないか。緊急に期間限定で補助制度を建替えやすい制度にする考えはないのか。

A コンクリートブロック塀の安全性等につきましては、現在、市民の方から数多くの相談・問い合わせがきており、撤去等の相談に対し、助成制度の案内を含め説明を行っているところです。

今回、議員より参考となるご提案をいただきましたが、今後につきましては、これら多くの相談が速やかな撤去につながるような制度が重要と考えており、まずは、本制度への申請の状況を踏まえ、国の補助制度の動向や他市の状況などの情報収集に努めてまいります。なお、現在、助成制度の申込み期限を延長することによりできる限り早期の対応を目指しております。

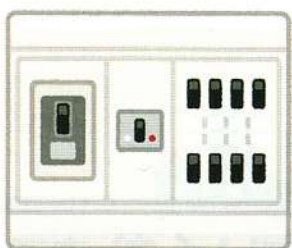
Q 政府が予測するブロック塀などの倒壊件数は、首都直下地震約8万件、南海トラフ巨大地震で約85万件に上る。いずれも、死者は数百万人を超え、街に潜む危険性の高さを示しているとの報道もあるが、本市ではブロック塀などの倒壊件数をどうみているのか。

A 平成22年度に船橋市防災アセスメント調査を実施し、東京湾北部地震の被害想定では、ブロック塀は、総数3万814のうち倒壊23,110件、石塀は、総数3,499件のうち、倒壊2,866件、コンクリート塀は、3,838件のうち、倒壊2,732件となっており、合わせて倒壊件数は、28,708件です。



## 感震ブレーカーについて

Q 千葉市が感震ブレーカーの無償配布(県内発!)及び設置補助制度を創設しました。重点密集市街地に対して、約800世帯に簡易タイプ(ばね式)無償配布、要改善市街地については町会自治会単位で共同購入する場合、1個あたり上限3,000円設置費用の2分の1を助成するものです。本市においては、財政的に厳しいので無償配布とはいいませんが、町会自治会単位での共同購入について助成制度を考えるべきではないのか伺う。



A 感震ブレーカーでございますが、これは通電火災を防止する手段として効果があることは承知している。このことから市では、感震ブレーカーの設置やブレーカーを落として避難するように、防災講話や防災フェアなどのイベントやホームページで周知しているところです。

船橋市につきましても、庁内組織の「木造密集住宅地研究会」において延焼の危険性や避難が困難となる木造の建築物が密集した住宅地を「木造密集住宅地」として抽出したところです。

現在は、木造密集住宅地の改善に向けて基本方針や各種施策などを検討しているところです。千葉市の感震ブレーカー無償配布及び設置補助制度などを提案するとともに、この研究で結果を踏まえ関係部署と協議してまいりたいと考えている。